

## 上海万博での経験を活かして

遠藤直美さんが表敬訪問

昨年行われた上海万博で、日本産業館副館長・礼賓局接遇事務長を務めた遠藤直美さん（三崎出身）が12月28日に町長を訪問しました。

遠藤さんは

高知大学卒業後、上海に渡り外資系ホテル等に勤務。上海万博では日本郵政が出席参加した『日本産業館』を訪れるVIP接遇の業務に携わりました。

「万博の印象は、殆どが中国人のお客様だったのでとてもマナーが良く、184日間を事故もなく無事終わる事が出来たのが何より嬉しかったです」と話す遠藤さん。「今は東京勤務ですが、春に新たな業務のために上海に戻る予定です。上海万博で出来たつながりをこれからの仕事に役立て、日本、そして地元を元気に出来る『何か』を持ち帰るために今後も頑張ります」と笑顔で話しました。



「南部町でのお正月は、とても久しぶりですね」と話す遠藤さん

## 1年の無病息災を願う

谷川のとんどさん

今年も年明けに、町内各地でとんどの行事が行われました。このうち谷川では、1月9日に3地区に分かれてとんどの行事がありました。地区内の人々が、正月飾りやしめ縄を持ち寄り、積み上げて燃やし、一年の無病息災を祈りました。

谷川では昔からの風習で、当番に当たった人は事前に門松も作ります。地区内で少なくなった黒松を探し、赤松、椎の木を切り出し、神木の青竹を立て、のぼりを上げ、歳徳神を迎える準備をします。

火の勢いが盛んになるころ、神木を恵方の南南東に倒し、祝宴をします。その後、来年の当番を決めるくじで「本番」と「副番」が決まります。当番に決まった人は顔に墨を塗ってもらい、本番に決まった人が歳徳神を背負い、副番が太鼓をたたき、賑やかに地区内を練り歩いて本番宅まで歳徳神を送ります。一年間、歳徳神をお預かりする本番宅は縁起が良いと地区内では慶ばれています。



雪景色の中、勢い良く燃えるとんどさん

## もちつき大会が開かれました

ことぶき大学と園児との交流



▲早くたべたいなあ

1月7日ひまわり保育園で、会見地区のことぶき大学（南部町高齢者学級）の方々と園児との「もちつき大会」が開かれました。園児たちの「よいしよー！よいしよー！」の掛け声に、当日唯一の男性大学生が威勢よく杵をつき、それをみんなでこねました。

途中ALT（外国語指導助手）のライエン先生や保育園の先生、そして園児も参戦！簡単に見えて難しい餅つきに大苦戦していました。

その後、お餅をきなこ餅やあんこ餅にして、園児と一緒に給食をいただき、「おいしい！」「おかわり！」と、お餅の出来も大好評でした。大学生は園児たちからパワーを、園児たちは大学生から古（いにしえ）の知恵を得ることができた、もちつき大会でした。